

令和5年度幼稚園学校評価（高松幼稚園）

分野	評価項目	評価の着眼点	自己評価		学校関係者評価	
			達成及び取組状況	評価	評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	教職員は、各年齢の発達や一人一人の育ち、実態を把握し、教育目標達成をめざした学級経営に努めている。そのため、教育目標・学級経営案を基に毎月の指導計画を作成し、月、期ごとに反省、評価を行い、次期の保育へつなげるようにしている。	4	4	○教育目標に向け、日々の保育が幼児の確かな育ちにつながるよう、年度当初に十分な話し合いを行う。 ○各年齢の育てたい幼児像や具体的方策をもとに、反省・評価を重ね、保育の充実を図る。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	職員全体で幼児を見守る体制作りが心掛け、一人一人の幼児の育ち・課題に目を向け、必要な支援、教育活動ができるよう支援の向上を目指してきた。日常的に学級の様子（遊び、子供の成長、保護者のことなど）を職員間で話題にし、幼児理解を深め、職員間での共通理解に努めてきた。	4	4	○職員間で全国児の様子を語り合ったり、互いに保育を見合あったりしながら、一人一人を多面的に見て幼児理解につなげていく。 ○個人懇談で保護者と教師が幼児の発達や課題について共通理解し、同じ意識で保育や子育てに向かえるようにする。
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	担任と補助教諭が連携を図り、幼児理解に基づいた必要な支援をし、学級集団の中で、安心して園生活が楽しめるよう努めている。支援シートを作成し、課題を明らかにしながら見直しをもって保育を行い、園全体で共通理解を図りながらよりよい支援ができるよう取り組んでいる。	3	4	○園内での話し合いを定期的に行い、支援の内容や方法について、全職員で共通理解を図る。 ○一人一人の支援について、他の専門機関との連携を深め、適切な支援ができるよう努める。
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	教職員が積極的に研修会に参加し、自らの人権感覚を磨き、人権意識を向上させるよう努めた。人権・同和教育目標を年齢別に具現化し、一人一人を大切に学級経営に努めている。人権・同和教育に視点を当てた保育公開・PTA研修会を実施した。	3	3	○園児が安心して自分を表すことができるよう、温かい関わりを努め、互いに認め合える集団作りが心掛ける。 ○園内外の研修に積極的に参加し、職員間で伝達し合うことで、職員自らの人権意識を磨く努力をする。
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	行事に対するねらい・年齢に応じた発達から内容を考え、行事に向かうように取り組んでいる。行事ごとに反省を行い、来年度につなげている。また、日々の保育との関連を意識した行事内容の工夫を行っている。	4	4	○ねらいを明確にし、幼児の実態に合わせた内容を検討し、日々の保育につなげ保育の充実を図る。 ○行事に至るまでの様子に加え、行事の意味や年齢に応じたねらいなども、保護者に伝え、幼児教育の理解につなげていく。
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	コロナ禍前のような交流はできていないが、保育活動で校庭を使用させてもらったり、小学校の運動会を見学させていただいたりする中で、子ども達は小学校をとて身近に感じている。保幼小連絡会で、1年生の様子や来年度入学予定児についての情報交換等を行っている。	3	3	○園舎が隣接している利点をいかして、引き続き小学校の校庭等を利用してもらったり、運動会等を見学したりすることで、小学校への親しみや期待感・憧れの気持ちが膨らむようにする。 ○互恵性のある交流ができるよう、小学校と連携をとっていく。
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	園だより、クラスだより等で家庭への情報発信に努めた。地域との連携においては、地域講師の方を招いて広場活動を実施したり、地域行事に積極的に参加したりして連携を図るようにしている。未就園児教室では、年間計画に基づき、季節感を感じてもらいながら、幼稚園教育・生活を理解してもらえよう内容工夫して行った。	3	3	○保護者や地域へ幼稚園の取り組みや教育内容等の発信に努め、地域行事へも積極的に参加していく。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	県主催の幼児教育推進研修で自園の研究の実践発表を行った。それに向かって職員が実践をまとめる中で、自園の研究内容の再確認と方向性について共通理解し、取り組みを進めることができた。職員が各種研修会に参加し、学んだことを復命・報告し自園の保育に研修内容を活かしていくことができた。	4	4	○研究・研修会への積極的な参加と園内研修の充実により、職員一人一人の資質向上に努める。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	職員は、担当の園務について早めの起案を行いながら、計画的に取り組むよう、努力している。勤務時間の異なる補助教諭がいるため、クラス内で連携し、全職員協力体制のもとで進めている。	4	4	○園務がスムーズに進むように、早めの計画をし、職員会議で共通理解を図っていくようにする。 ○情報共有に努め、助け合ったり協力し合ったりする体制づくりが心掛ける。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	災害等の避難訓練を定期的の実施し、園児の安全意識を高めると共に、迅速な避難行動ができるように努めた。給食時のアレルギー対応や日常的な衛生管理、感染症予防にも努力した。流行性の疾病予防対策として、手洗いがいの励行や消毒、保健だより等による家庭の周知等に努めた。	4	4	○報告・連絡等を密に行い、職員・園児・保護者の安全に対する意識の高揚を図る。 ○園児の安心、安全な生活のため、感染症の取扱いや園内での生活について、市や他の幼稚園の情報収集したり、連携したりしながら進めていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月、2人1組で安全点検を行い、異常や危険がある場合は、早急に対応した。園舎の老朽化、元気広場の水はけの悪さなど、課題があり、保護者アンケートの評価も低めである。継続要望が十分に叶わないが、今後も市へ要望していく。	3	3	○今後も教育施設課との連携を密にし、改善が必要な箇所を発見した際には、速やかな対応に務める。

※評価基準 4：十分達成している 3：概ね達成している 2：改善を要する部分がある 1：大いに改善を要する